

下野市立南河内第二中学校

1 学校課題

「思考力や表現力の向上を図り、自ら課題をもち、共に学び合い、深い学びに向かう生徒の育成」

2 研究計画

(1) 主題設定の理由

平成31年度より、小中一貫教育の取組として南河内第二中学校区の祇園小、緑小と同じ研究課題で進めていくことになり、本校の学校課題は、昨年度から継続して、「思考力や表現力の向上を図り、自ら課題をもち、ともに学び合い、深い学びに向かう生徒の育成」とした。研究内容としては、前年度の反省を踏まえ、①話し合い活動が必要となる課題設定の工夫、②深い学びにつながる話し合い活動の実践と探究、③授業のねらいや目標に合わせた「振り返り」の実践とその後の授業改善の3つを柱とし、全教科で研究を進めることで、研究主題に迫っていききたい。

(2) 学校課題の研究によって目指す生徒像

「主体的に考え、学び合いを通して互いに高め合える生徒」

(3) 研究目的・内容

学校課題に基づいて、主に以下の3点について、実践や検証をすることで、今後の学習指導力の向上に資することを目的とする。

- ①話し合い活動が必要となる課題設定の工夫
- ②深い学びにつながる話し合い活動の実践と探究
- ③授業のねらいや目標に合わせた「振り返り」の実践とその後の授業改善

(4) 研究方法

- ①話し合い活動に意味を見い出せるよう、やや難易度の高い学習課題を設定し、話し合い活動がより活発、かつ内容に深まりが出るよう工夫する。
- ②思考力・表現力の育成に向け、各教科で指導法や話し合い活動の在り方、発問や資料提示の工夫等を研究し、いかにして深い学びにつなげるかを探究していく。
- ③各教科で「振り返り」を実践し、生徒自ら学びの達成感や自己の取組状況について把握できるようにするとともに、生徒のつまずきや疑問、新たな課題といった生徒の実態を教師が分析し、その後の授業改善に役立てられるよう努める。

(5) 研究手順

研究方法で示した内容を以下の手順で進めていく。研究授業は今年度、年間2回設定し教科の枠を取り除いて全教職員が参観する。研究授業の成果と課題の下、各教科の研究実践や授業改善に生かしていく。

- | | | | |
|---|-----------------------------------|----------------------------|---------------------------------------|
| ① | 4月 | 研究計画の作成 | 評価計画・指導計画・課題設定についての検討 |
| ② | 5月27日 | 教研式標準学力検査(1年) | とちぎっ子学習状況調査実施(2年)
全国学力学習状況調査実施(3年) |
| ③ | 8月 | とちぎっ子学習状況調査及び教研式標準学力検査の分析。 | 各教科で評価計画及び指導計画について検討 |
| ④ | 10月 | 全国学力学習状況調査の分析 | 各教科部会で評価計画及び指導計画の修正及び自校化について検討 |
| ⑤ | 『深い学び』に関する研究授業・授業研究会の実施(S&Uコラボ事業) | 10月(数学)・12月(理科) | |
| ⑥ | 12月 | 教科部会で研究報告の作成 | |
- *前期(7月)・後期(10月)(2月)に道徳を語る会を実施

3 研究内容

- (1) ねらいや目標に合わせ、どのように課題を設定し、かつ学習形態を工夫したか。
 - ・課題設定については、前時とのつながりから本時の課題を設定したり、単元毎に追究する内容を変えたりしながら、生徒自身が学ぶ必然性を感じられるよう工夫した。また、短時間のグループ学習を取り入れ、個々で「自分の考えを書く」時間を多く設け、社会事象と向き合わせるよう配慮した。(社会)
 - ・「見通しをもった実験・観察」に焦点を当てて課題を設定し、予想→実験・観察→結果→考察の流れを意識させ、グループ学習を行った。(理科)

- ・表現力を育成するため、物語の展開を文章で説明したり、グループで登場人物の心情を考えながら朗読したりすることを課題に設定した。(国語)
 - ・教科で、「自分なりの根拠と解法の説明を書く」という課題を設定し、様々な場面で自分が書いた説明を小集団で発表し、吟味する時間を設けた。また、問題を解く際は、個人→ペア・グループ→一斉と段階的に授業を行った。(数学)
 - ・「音楽の魅力を知ろう」という大きな課題を設定し、そのためにはどのような活動が良いかを考え、指導を工夫した。(音楽)
 - ・新型コロナウイルス感染症の影響で、授業時間が削られたため、限られた時間の中で基礎・基本の定着が図れる課題を設定するよう工夫した。(美術)
 - ・学習した言語材料に合わせて、言語の使用目的・場面等を設定し、生徒が自ら考え自由に表現できるよう課題設定を工夫した。(英語)
 - ・言語活動を生かして、互いに共有し、高め合える課題を設定した。学習形態は、ペアやグループを作り互いにアドバイスしながら活動できるよう努めた。(保健体育)
- (2) 深い学びにつなげるため、導入や発問をどのように工夫したか。
- ・以前の学習との繋がりがあがる単元では、関連する知識に関する写真や実験の動画を導入として扱い、既習事項との繋がりを意識させた。(理科)
 - ・導入では、多くの生徒が知っているであろうもの、知っている生徒もいるであろうものを段階的に分けて提示した。(社会)
 - ・思考力・判断力・表現力を身に付ける授業では、多くの指示や説明は思考の妨げになることがあり、できるだけ生徒自身に考えさせる発問を心がけた。(英語)
- (3) 授業のねらいや目標に合わせてどのように「振り返り」を行ったか。また、その結果をその後の授業にどう生かしたか。
- ・教員からの意見だけでなく、友人からのアドバイスを参考に改善点を記入させた。(保健体育)
 - ・振り返りは、全体で意見を共有することで、級友の視点を取り入れるようにさせた。その結果、フィードバックできる振り返りになった。(社会)
 - ・教室全体や生徒個人に授業の感想や理解度などを質問し、その理解度に応じて次の授業で演習の時間を取り入れたり、補充的な教授の時間を設けたりした。(国語)
 - ・ICT機器(書画カメラ、大型ディスプレイ)を活用したり、作品の写真を掲示物にしたりしてイメージがわかりやすいようにした。また、製作した作品や育てた作物については記録に収め、いつでも取り出せるようにデータベース化した。(技術・家庭)

4 本年度の成果と課題

(1) 成果

- ・各教科の特色を生かし、生徒が興味・関心をもてるような学習課題を設定した。やや難易度が高い課題に対しても、グループで協力したり、意見を出し合ったりしながら、意欲的に課題解決に取り組むことができた。
- ・昨年度同様、コロナ禍の影響で、話し合い活動の制限はあったが、短時間・小グループでの話し合い活動を効果的に取り入れ、考えを練り合うことができた。
- ・振り返りに友人からのアドバイスを参考にさせたり、全体で意見を共有させたりすることで、他者との違いを意識し、どちらがよりよい方法か考えるようになり、考えを深めることができた。

(2) 課題

- ・話し合いに参加できていない生徒については、知識面や意欲面、話し合いに対する心理的な抵抗感など多様な理由が考えられる。今後、個々への対応と教室全体の対応の両面から、サポートの仕方を考えていきたい。
- ・タブレットの活用については、どの教科も試行錯誤の段階で、今後実践を通してより有効的な活用方法について検討を重ねていきたい。
- ・今年度は、コロナ禍の影響、あるいは教科書が改訂されて初年度ということもあり、指導計画どおり進まないこともあった。来年度は学習形態や時間配分等を見直し、生徒の主体的な活動を増やしていきたい。



【S & U 授業研究会の様子】